

す。これが感化教育上の一大要點です。幼少の間に花を愛し樹を護ると云ふ美はしい習慣を造り、また鳥や獸を愛してまるで我が友の如く取扱ふ中に、自ら美はしい同情の念を生ずるは幼兒の精神生活に大きな價值がある。天然を愛するのは高尚な精神生活の發達する始めであります。

幼少の時に此美はしい天然を愛する心を養つて置けば、後に迫んで動物を虐待するやうなことは避けられると思ひます。西洋の人々はよく動物を

愛します。例へば犬や馬などを愛する程度は大したものです。これも矢張幼少の間から常に犬や、馬を友の如く愛して居つたためだらうと思ひます。自然を尊び天然を愛する心を幼兒の胸に深くつぎ込んで置けば、これが智情意の方面に種々の形に於てよき實を結んで實際生活に利益を與へるのです。この邊の消息は幼兒哺育に従へる人の領解を要するところだと思ふのであります。

幼稚園に於ける數の取扱につきて

神戸幼稚園長 望 月 くに

一 數の名稱と數の觀念

(1) 數の名稱とは、數の系列即一二三四五六と數の順序通りに讀み行くことにして、大人ならば同

時に數觀念の伴ふものなれども、幼兒に於ては無論數觀念の構成せられたるにも、理解せられたるにも非らずして、唯一定の順序に配列せられたる數の名稱即言語を學習したるに過ぎずして、數の

觀念とは全く異りたるものなり。

(2) 數の觀念、幼兒の數の觀念は一つ又一つ更に又一つと個物を數ふる動作が、主要なる内容となつて、始めて數の觀念成立す、而して、其之を數ふる動作は幼兒があらゆる遊戯、遊具、食物の分配占領、家庭幼稚園に於ける器具等によりて、不知不測の間に爲さるゝものなれば、其數觀念は著しく發達すべき筈なるに、不定の「多」の觀念は、最も幼き時より成立するに拘らず、一定の數觀念は比較的後れて發達す。こは全く、數觀念は物體の直觀より分離して、抽象的の性質を帶ぶるが故に、此觀念の成立は幼兒に於ては甚だ困難なる事たるべし。

今神戸楠兩幼稚園の幼兒三百三十人に付きて、其記憶せる數系列の名稱及數の觀念を調査したるに、左の如き結果を得たり。

二 數の名稱の調査

(1) 其方法 幼兒を一人づつ呼び來り、一つ二つ三つ四つと順次に數の系列を讀ましめ誤れるか、又は、讀み得ざるに至りて止め其數を記す。

(2) 結果 此の調査の示す處によれば、四年——五年の幼兒は、男女共二十以上を誦し得るもの至つて少なく、五年——六年の男兒は二十九迄を、女兒は三十九迄算する者最も多し。大體に於て二十九、三十九等次の階段に移る時に於て、其誦む方に困難を感ずるものゝ如く、女兒は手毬歌を誦するにより數の名稱を知るは男兒に勝れるが如し。稀に一萬を數ふるものあり。僅に三四より其名稱を知らざる者あり。個人差の此の如く大なるは主として、家庭及幼稚園に於ける無意、有意、教育の如何に影響するなるべし。

三 數の觀念の調査

(1) 其方法、四年——五年の新しく入園せる幼兒を、二名づつ保母の兩方に居らしめ、膝の上に貝、

椿の實、まめ等を置き「貝を一つ下さい」椿の實を二つ下さい」といひながら兩方の手に幼児の差し出すを見るに、自分の數へ得る數に至れば、それは「多」と考ふるにや、一つ二つは明に數へ、三つ下さいと云ふに及び、或者は一握して多數を出し、他の者は四つ迄數へ五に及びて同じく一握りの多數を差し出せり。他は皆之に準ず。

五年——六年の幼児は二十人程づつに分ち、前記の如き各種の數多き果實、種子、貝類を箱の中に入れて渡し置き「何々を五つ下さい」。「何々を下下さい」と求むるに應じて持參せしめ一一之を檢せり。然して殊に百以上を算し得る者には多數を與へおき、其計算方法を見しに十個づつに區分して、十個が十で百なり、百が十で千なりと自から工夫運用を爲し居たり。

(2)結果 此の調査の示す處によれば、四年より五年の男女兒共三四迄の觀念を有するもの最多し此幼兒は本月始めて入園したる者なれば其の數觀

念の影響は全く家庭に於ける無意的の教育より自然に得たるものなり。

五年——六年の幼児は男兒に於ては十四迄を知れるもの最多し。女兒にありては遙に男兒に劣り三迄を知る者最も多く夫より漸次下降して十三迄は猶知るもの多し。此幼兒中一年間幼稚園教育を受けたるものは、其三分の二にして家庭より直ちに來園せるは其三分の一なり。而して其成績を檢するに、幼稚園教育を受けたるは、家庭教育のみの幼兒よりは概して成績良好に確實なる數の觀念を有するもの如し。

幼稚園に於ける數の教育方法といふも別に算へ方教授をなしたるにあらず。唯遊戲の際、何を何個持つて來て下さいとか、自然物採集等の場合に、自分の與へられた數札（十以下の數を丸にて示したるカード）の數だけ採集せしめたる等の影響を受けしものにて、幼兒は必要上より、自發的に學びしものならん。

女兒に於ては、四年——五年の年齢に於ては教育上男兒と差異なきに拘らず、今此調査によりて見れば、一年間の相違にて遂に男兒に追ひ越されたるは、女兒は男兒よりも數の能力の劣れるによるか、または自發活動の及ばざるあるに基因するなるべし。

四 幼稚園に於る數の取扱法

モンテツツリーの教育中殊に算術教授に於て成
教せるは人の已に知る處なり。是より先きフレール
ベルは、人の教育第三十八節に

數の關係を知る事は兒童生活の上に大なる利益を與ふる者である。そこで母及他の保育者たる者は數の性質と人間思想の特別なる法則に従つて、極めて早くから幼兒の衷心に數學的能力を發達さす事が必要である。之は實に兒童精神の要求である」と説き

我國に於ても明治八年幼稚園の開設せられし頃

より數へ方を幼兒に課したる事ありき。されど今日に於ては何れの幼稚園にも數へ方といふ時間を特に設けらるるを聞かず。かゝる特別の時間を設くるの必要はあらざるべけれど、つらつら幼兒の遊戯を観察する時は、數の觀念及其計算は彼等の日常生活に必要な程度に於て十分に樂しく行はるゝを以て其丈にても已に、其目的を遂げらるべき次第なれども、之を保育者の方面より考ふる時は、何等かの方針を定むるを以て便利且有益なりと思惟す。

(一) 小學校の準備としては個人差の減少を計る事、前記諸表の示す如く幼兒の數の觀念には、個人差非常に多きを以て十分に發達せる者は暫く措き、其年齢の平均に到達せざる兒童あらば、適宜の指導を與へて普通の幼兒と並行し得るに至らしむることは、單に該幼兒の幸福のみならず、小學校に於ける取扱上にも亦便利なるべし。

(二) 數觀念の養成 幼稚園時代に於ける數觀念

の養成は全く直觀的具體的にてあらねばならぬことは明白なる道理なり。されば幼兒の遊戲、玩具遊、談話等苟くも數ふべき機會あるごとに興味あるべく之を取扱ひ一つ二つと數ふる動作によりて明かに數を識り得る程度より始め、遂には片手の指(五)兩手(十)位は計算を用ひずして認識し得るに至らしめんことを期し、而して其程度は右の表により、四年——五年は五、五年——六年は十以上少しく進みても可なるべし。

(三)數の運用 數の觀念の發達は勿論、其運用の伴ふべき等なれども、幼稚園に於ては、小學校に於て教ふるが如く、其運用を規則正しく教ふるに

幼 兒 觀 察 記

從來我幼稚園に於ては一定の題目を設け幼兒の

は及ばずして、單に幼兒自身の必要に應じ彼等の自から啓發するに至るを待つべきなり、モンテッソリーの如く幼稚園に於て十分に算術に力を盡す時は、必ず其成績の見るべきあるべしと雖現今我國の有様に於ては、小學校に於て特別の方法を採用せられざる以上、其範圍内に立ち入るとは却りて心すべき事なりと考ふ。「調査人員僅少にして一般の結論を出すには尙餘りに早きも余の集めたる材料より試に概括推論し我幼稚園に於ける數の取扱上の注意に資したるものなり」(編者曰く此の有益なる研究報告には精細なる四個の表を添えられたるが、印刷の都合上遺憾ながら割愛したり。之れがために此の論文の光彩と科學的價値とを損せること尠からず特に記して望月氏及び讀者諸君に其の多罪を謝す)

廣島女學校附屬幼稚園 野 田 千 代

遊は多く是に基因し居たりしが、近來此の方法を